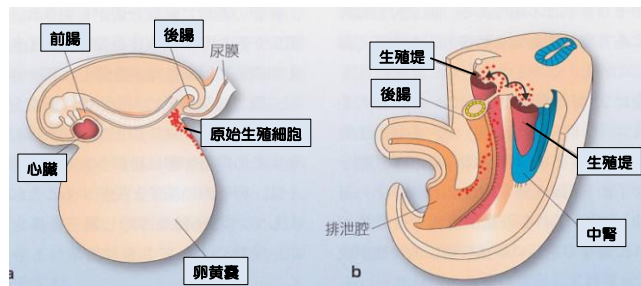


## 原始卵胞はいつできるのか？

卵細胞の始まり：

原始生殖細胞が卵巣原基に移動して卵原細胞（oogonium）となる。卵原細胞は卵祖細胞（oogonium）と同義語である。この卵原細胞が成熟卵まで分化する過程を卵形成（oogenesis, ovogenesis）という。卵原細胞は細胞分裂によって増殖して数を増す（増殖期）。発生の第5ヶ月までに卵巣中の生殖細胞の総数はその極に達し、約700万を数える。次に分裂を停止して核および細胞質が増大する成長期に入る。この細胞は第一次卵母細胞（primary oocyte）と呼ばれる。卵母細胞が形成されるときに卵巣間質細胞がこれを取り巻き、1層からなる扁平な卵胞細胞層が形成される。この卵胞細胞に包まれた卵母細胞を原始卵胞（primary follicle, primordial follicle）という。将来、発育し成熟後に卵巣から排卵される卵子の元は、この原始卵胞を指して記載されている教科書が多い。

原始生殖細胞  $\xrightarrow{\text{アメーバ運動}}$  生殖巣（卵巣や精巣になる）



発生第3週末、出現

胎生7カ月



(図：卵子学、人体発生学より引用)

出生後の成熟：

ほぼ出生時にすべての卵母細胞は第一成熟分裂の前期に入っているが、中期には進まず複糸期（diplotene stage）に入る。この期は前期中期の休止期で、クロマチンのレース状の網の目が特徴である。思春期に達しないうちに一次卵母細胞が第一成熟分裂を完了することはない。これは、卵胞細胞から分泌される卵子成熟抑制物質（oocyte maturation inhibitor; OMI）によるメカニズムだと考えられている。

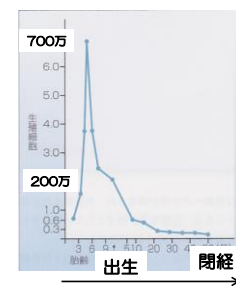
卵子は何時できるか？

卵祖細胞（卵原細胞）→ 一次卵母細胞  
{原始卵胞}

受精  
8週後～20週



妊娠期間=280日



参考資料：

南山堂 医学大辞典

ラングマン 人体発生学 著 トマス・W・サドラー 訳 安田 峯生、沢野十蔵 医学書院 MYW

パッテン 発生学 訳 白井敏雄 西村書店 A Child is Born by Lennart Nilsson.